

しき者、こもをかぶりて臥し居たりけるが、それを見て、人の祖考のためとて、墓にすゝめける物を、さやうに狼藉する事あるべからずと制しけるに、惡黨ども、もろともに罵て、こもをかぶる身として、いらぬ事をいふ奴かなといひしに、その乞食き、て、各が今するやうなる事をせぬ故に、こもをかぶるといひしとぞ、

〔泉涌寺諷誦類〕南瞻部州大日本國々□□□黑白諸衆等白

伏値七月半、之勝時、因孟蘭盆大會、聊營香華燈燭、微供敬勵、誦經念佛之殊勳、以救鬼趣之難兼祈恩所得脫者、

右伏以、實相虛曠、泯十界於一理、心植包容、收千如於方寸、迷之則苦樂永隔、悟之乃凡聖頓融、凡中以惡趣而爲極苦、中以鬼道而爲重、至如目連供於亡母、一飯化成火炭、耶舍遊海邊、二鬼同縈、牢鎖皆是莫非慳業所致、心力企然、情觀六道衆生、悉是生々父母親族、切願四生群類、共復世々恩夢、知識斯日、不資彼神靈、何時得拔其處苦、依之因逢孟蘭盆之大會、聊設微供、得遇佛歡喜之勝日、敬誦神呪、伏冀三品九類之諸鬼、頓釋倒懸而越苦海、七世四恩之群生、速藉重修、以到樂邦、更乞衆聖之冥加、必鑿一會之懇誠、謹疏、應永□□□□□

〔建内記〕嘉吉元年七月十五日己酉、諸寺孟蘭盆也、蓬屋靈供等、如形致沙汰者也、淨蓮華院盆供物先相語寺家、依西國不通也、白蓮社盆供物玄周定致沙汰哉、勝裁使職年貢内示含之故也、

文安四年七月十五日乙巳、諸寺孟蘭盆也、河東西郊以下如例、年貢未到之間、先寺家可致用意、由内内相語知事云々、又於蓬屋御靈供如例、委時常註置歟、今夕供水又如例、

〔碧山日録〕長祿四年○寛正元年七月十五日己丑、春公開孟蘭盆會、有供佛齋僧之儀、

〔國師日記〕寛永九年七月十五日、増上寺江御成、尾張紀伊水戸御三人、國師同道出仕、御燒香以後、奥之書院にて、即心成佛之法問有之、僧衆廿人、其後御菓子御吸物御酒被召上、御三人様國師御相伴